

西高東低のいわゆる「冬型の気圧配置」になっても、東京に雪が降ることはまずありません。この気圧配置の時は、日本海側や関東北部（上越国境や上信国境）は大雪になることはありますが、関東の平野部は空気が乾燥し、快晴になることが多いからです。

東京や横浜などの関東南部の大都市に雪を降らせる原因は、主に二つあります。一つは「房総前線」です。房総前線とは、伊豆半島から房総半島にかけて出現する、局地的な停滞前線で、ちょうど東京や横浜は雪を降らせる範囲に入ることがあるのです。ただし、房総前線がつくる雪雲は小規模で、降っても大雪にはなりません。「房総前線」の語は、かつて気象の専門書には必ず載っていました。近年は死後に等しく、天気予報でも耳にすることはめったにありません。

もう一つは「南岸低気圧」です。こちらは天気予報でもよく耳にします。温暖前線と寒冷前線を伴った優勢な低気圧で、乱層雲や雪層積雲を発生させるので、関東南部も大雨や大雪になります。南岸低気圧は2月から3月にかけて列島南岸を通過することが多いので、東京では真冬よりも立春後に雪が降ることが多いのです。特に寒冷前線が通過すると気温が急激に下がるので、雨から雪になることがあります。

先日の雪では、東京にしては激しい降り方でした。小石川でもうっすらと積雪がありましたが、その後すぐに融けてしまい、交通にはほとんど影響はなかったようです。「紅梅に雪」は、東京の不思議な風景でした。

(2025年3月中旬／文京区小石川)

